

医療・保健・福祉・市民の情報交流の場
大村市在宅ケアセミナーだより

第109号 平成25年7月

発行元: 〒856-0820 長崎県大村市協和町779

(一社)大村市医師会 大村市在宅ケアセミナー広報部 TEL:0957-54-0151
ホームページ:<http://www.nagasaki.med.or.jp/oomura/caresemi/index.html>

平成25年度 大村市在宅ケアセミナーメインテーマ
**『多職種協働による地域づくりをめざして
～地域包括ケアシステムの構築～』**

第126回 大村市在宅ケアセミナーのご案内

日時* 第3木曜日 7月18日(木) 18:45～

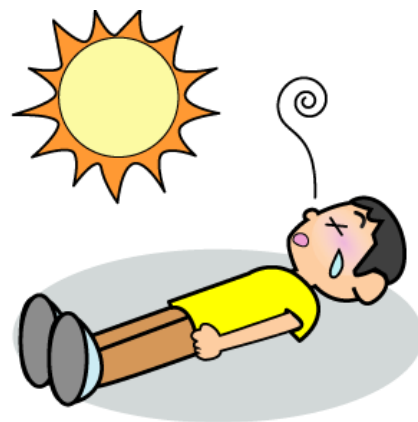
場所* 大村市民会館 3階大会議室

内容*

講演 『熱中症の予防について』

講師 長崎医療センター 総合診療科

今立俊輔 先生



年会費の納金をお願いします

年会費(1,000円)を納金頂いた方に
会員証を発行いたします。

セミナー受講の際は、受付で提示を
お願いいたします。

(平成24年度会員358名)

～ホームページにてセミナー便りを掲載しています。セミナー便りの郵送料軽減
にご協力できる方は、事務局までご連絡頂ければ幸いです。～



第125回 大村市在宅ケアセミナー開催報告

日時*平成25年5月16日(木)

場所*大村市民会館 3階 大会議室

内容*①平成25年度 総会

②視察研修報告

③福祉介護避難所の取り組みについて

大村市福祉保健部福祉総務課 川下隆治政策係長

参加人数* 111名 当日入会 54名(新規13名)

《質問・感想など》

- * 災害時の要援護者に対する支援体制の整備を、平常時から地道に周到になさっている姿に、敬意と、大村市住民としての安心感をおぼえました。自分自身の防災対策を見直す意味からも参考になりました。
- * 災害対策を考えなければいけないという意識はあっても、なかなか具体的には考えられない状況だった。今回の話を聞いて、日頃から災害時のことを意識していかなければいけないし、専門職、地域の中の一人として役割をはたせるような心構えをしたいと思った。
- * 防災についての話は、とてもわかりやすかったです。市の職員の方であんなに熱く話をしてくれる方がいることに大村市民として安心できました。議員さんみたいでした。
- * 「おおむら・・・手引き」川下様・・・演者の一生懸命さには感銘を受けた。

(回答)災害という圧倒的な自然の脅威の前では、市も各法人さんも、そして住民のみなさんも、誰もが同じ地域の一員として向き合うほかありません。それぞれができることを最大限やり抜くことが災害対応の原点だと思います。その土台が「自助」です。私が今回のセミナーを通じて最も言いたかったのは、大災害が来ようと、みなさんが必ず生き残り、家族を守り抜く覚悟を持ってほしい、ということです。その先にしか「共助」も「公助」もありません。会員のみなさんは、普段からたくさんの支援を必要とする方々を支えておられます。その方々を災害時でも変わらず支えることができるよう、必ずみなさんに生き残ってほしいのです。綺麗ごとではなく、それこそが災害時要援護者を支えるために必要だと私は思います。

- * 福祉介護避難所・・・大村市の取り組みが良くわかりました。とても必要な取り組みであり、施設としてだけでなく、地域の中の一人として考えていくべきことだと思います。
- * 介護避難所の話し、参考になりました。町内会が必要だとあらためて思いました。団地に住んでいますが、72世帯の氏名など知りません。コミュニケーションをはからなければ、と思いました。

(回答)今回、会員でもある専門家のみなさんのご協力で、「おおむら福祉介護避難所開設・運営のてびき」(H25.3)を作ることができました。市との協定に基づいた福祉介護避難所の指定、運営の手順等を定めています。ぜひ、一緒に災害時要援護者の支援に取り組んでいきましょう。ただ、福祉介護避難所を有効に機能させるには、地域との連携が重要であり、今後も自主防災組織等との協力体制づくりを地道に続けていくつもりです。

- * 要援護者を助けるしくみを作ることは大切と思いますが、助かった後のことまで考えておくことが大切ではないでしょうか。これまでの災害時にも、孤独死、喪失感によるうつなどが問題になっていると思います。ただ、助けるだけのことが必要でしょうか？

(回答)私も全く同感です。しかしながら、現時点では発災直後の初動である「助かる」と「助ける」に力点を置いています。そこから繋がる緊急・応急対応として福祉介護避難所も位置付けています。その先には長い生活再建の道のりがあり、息の長い支援体制が求められることは仰るとおりだと思います。そのためには、地域のつながりを活かした支援、そして法人さんの事業継続性を高めることが大切であり、「おおむら災害時助け合いプラン」(H23.3)で既にその方向性を明記しているところです。今は、発災直後の支援の姿がようやく見え始めた辺りですが、段階を踏んで取組みを進め、時機を見て生活再建～復興段階の支援プランづくりを手掛けてみたいと考えています。

など、多くの質問・感想を頂きました。講師の先生より、丁寧なご回答を頂きました。

※当日の配布資料は、講師の了解を頂き、在宅ケアセミナーホームページに掲載しています。